



いもうとに
愛のムチ



件名：ごめんね
本文： ごめんね あたし 今日.....

カレシ以外のヒトと
エッチしちゃった



ホントはだめだって
わかってた

けど、強く抱きしめられて
拒めなかったの

———なんて
お兄ちゃんに
告白しても困るよね

でも、ひとりで
抱えてるのがつらくて

お兄ちゃんに聞いて
ほしいの。



こないだ試験勉強で
みんなで図書館行ってく
たってたでしょ

あの日なの





びっくりしたけど
キライなヒトじゃないし

傷つけたくなくて
何も言えずにいたら

強引にキスしてきたの。



そしたら、なぜか
図書館の裏手に
連れて行かれて

あたしのこと
好きだって

アイツと別れて
オレのモノになれって
言われたの



はっ……
だってカレシより
全然キスが上手だったの！



んっ

んっ……

そしたら、あたし
とろけちゃって。



キスで全身の力が抜けちゃって。
そしたら、もうダメ。

あたしは強く抱きしめられて
もう、身を任せるしかなかった。

あのヒトの手が
あたしのおしりを
なでたり、つかんだり、



愛莉………！



すっかり挿られて
しまったから
もうエッチ成立でしょ。



けれど、無駄だった。

あたしのカラダを
ぎゅっつつかんで
強引にねじ込んで

ぐいぐい
自分の方に寄せてきたの。



抵抗しても仕方がないって思って
あのヒトの動きにつきあうことにしたの。

はあ、

はあ、

あのヒトが動かしやすい
ように腰を浮かせたり
呼吸を合わせたり。

カレシとのエッチより
気持ちよかったの。。。！

あーん

あたし、初めて
ナカでイっちゃった！

んん

.....

んん

あーん

[illegible]



あのヒトも「おまえのナカ
すごく気持ちいいよ」って言いながら
びゅるびゅると白い液体を



そういえば予兆はあった
以前は二つに結っていた髪を
おろすようになったこと

あれ
似合ってた
のにな...

長い丈のスカートが
お気に入りだったはずなのに
最近短くなる一方だったこと



愛莉...
我が妹はいつからそんな
ビッチ娘になってしまったんだ
お兄ちゃんは悲しいよ.....



だああああ
ああああ

もうこれ以上読めん！
読みたくない！
読みたくないぞ
愛莉——ッ！



ははは
おっ今日の夕飯
なにに？
アニキ特製
オリジナルパスタ？

コラ 麗
家族が帰って来たら
まずは
おかえりなさいだろ？



はいはい
おかえり
アニキ

おかえり
なさい
お兄さま

やれやれ
双子なのに
両極端だな
……



ただいま……



ただお年頃になつてきた
だけと思つてたのに

こんな

こんなことに
…………ツ



もう部屋で
宿題するし！
じゃあね
オニイチャン！

うららったら……
双子だつてことが
時々恥ずかしく
なるわ……

まあ
仲良く
やつてくれよ



あつあつ
ごめん！

お仕置きは勘弁！
お仕置き部屋に
連れて行くのだけは
やめてよね！



なあ麗
お前も女の子なら
アニキだのアネキだの
オヤジだのは
どうかと思うぞ
そんなんじや
亡くなった
母さんが悲しむ



口うるさいなあ
アニキは

うらら



ぎく



元は母さんの部屋だった

忙しい父さんになつて
長男である僕が
みんなの母代わりになると
誓ったあの日から

僕は妹達を立派に
健やかに育つように
努力してきたんだ



お仕置き部屋か
……



もちろん

私もお仕置き部屋に
連れて行かれたくは
ないですから



時にはこの部屋で
亡き母に代わって
お仕置きを
施したりしながら

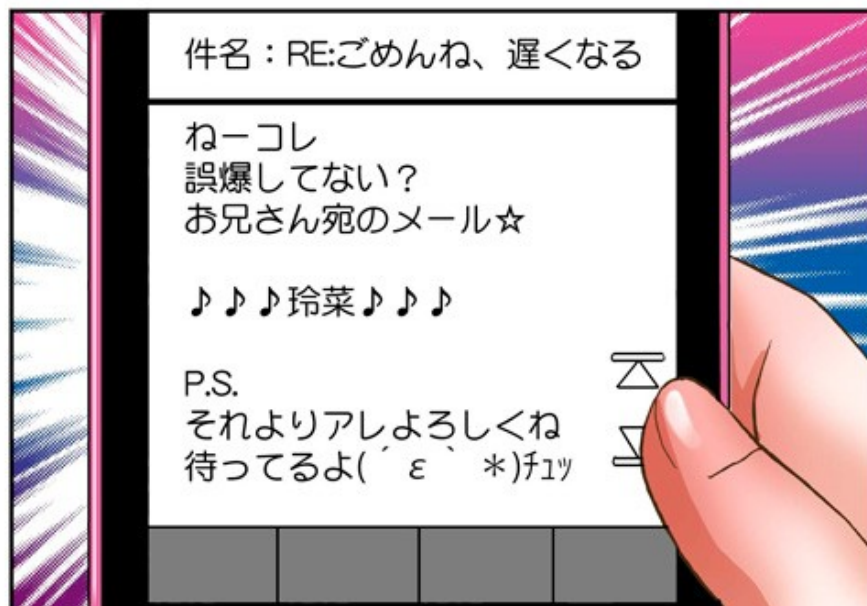
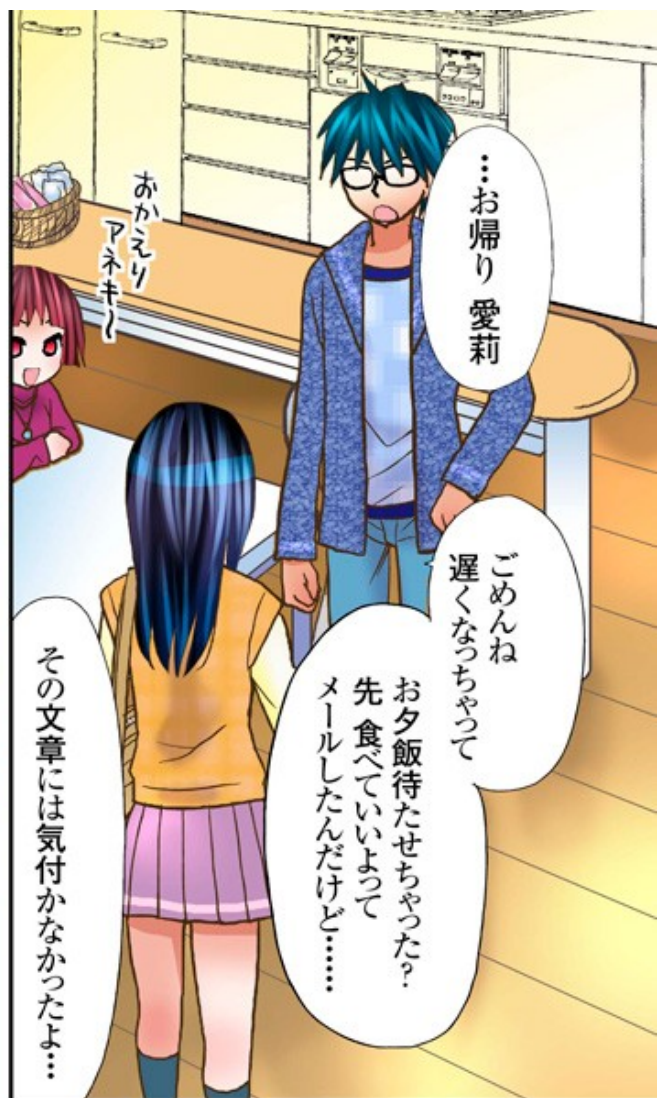


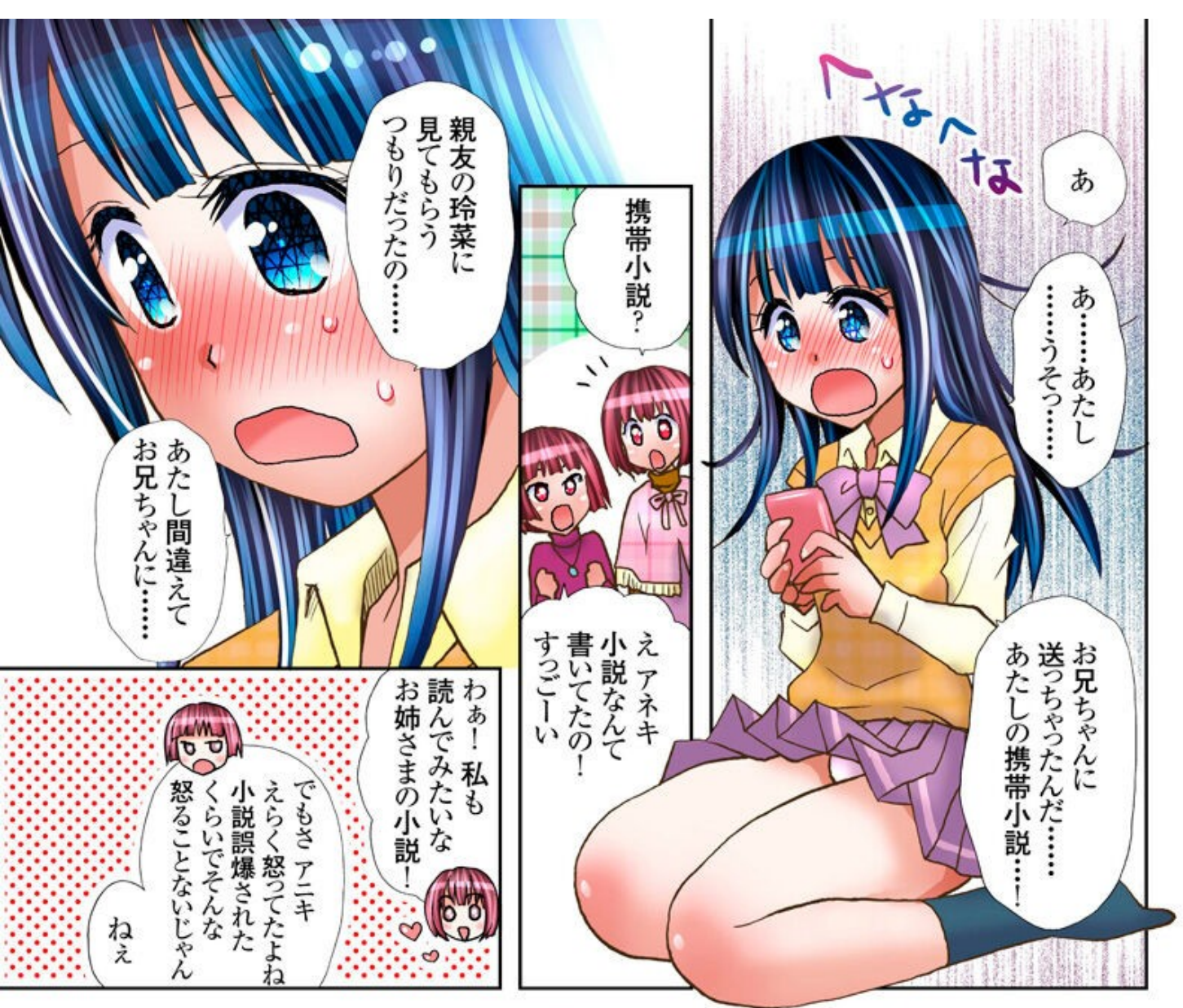
ただいま

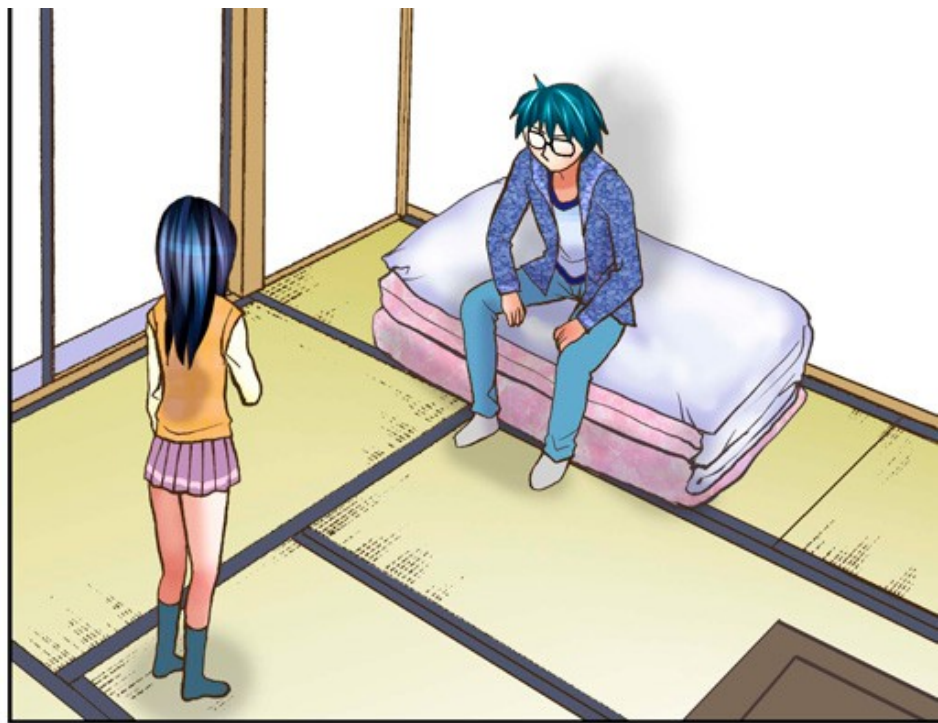


妹達も大きくなり
幼稚なイタズラは少なくなり
しばらくこの部屋を
使うことはなかったが……

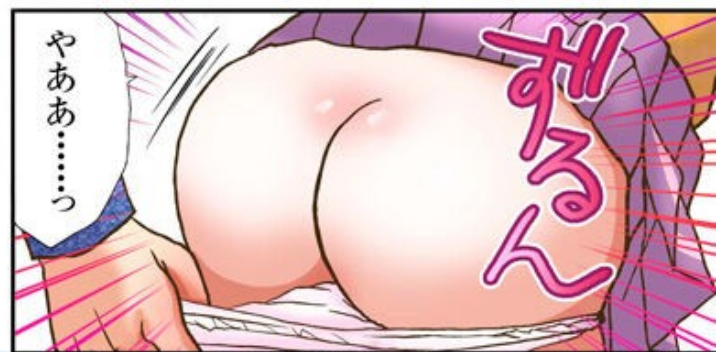
今日は久しぶりに
使わねばならない時が
来たようだな……

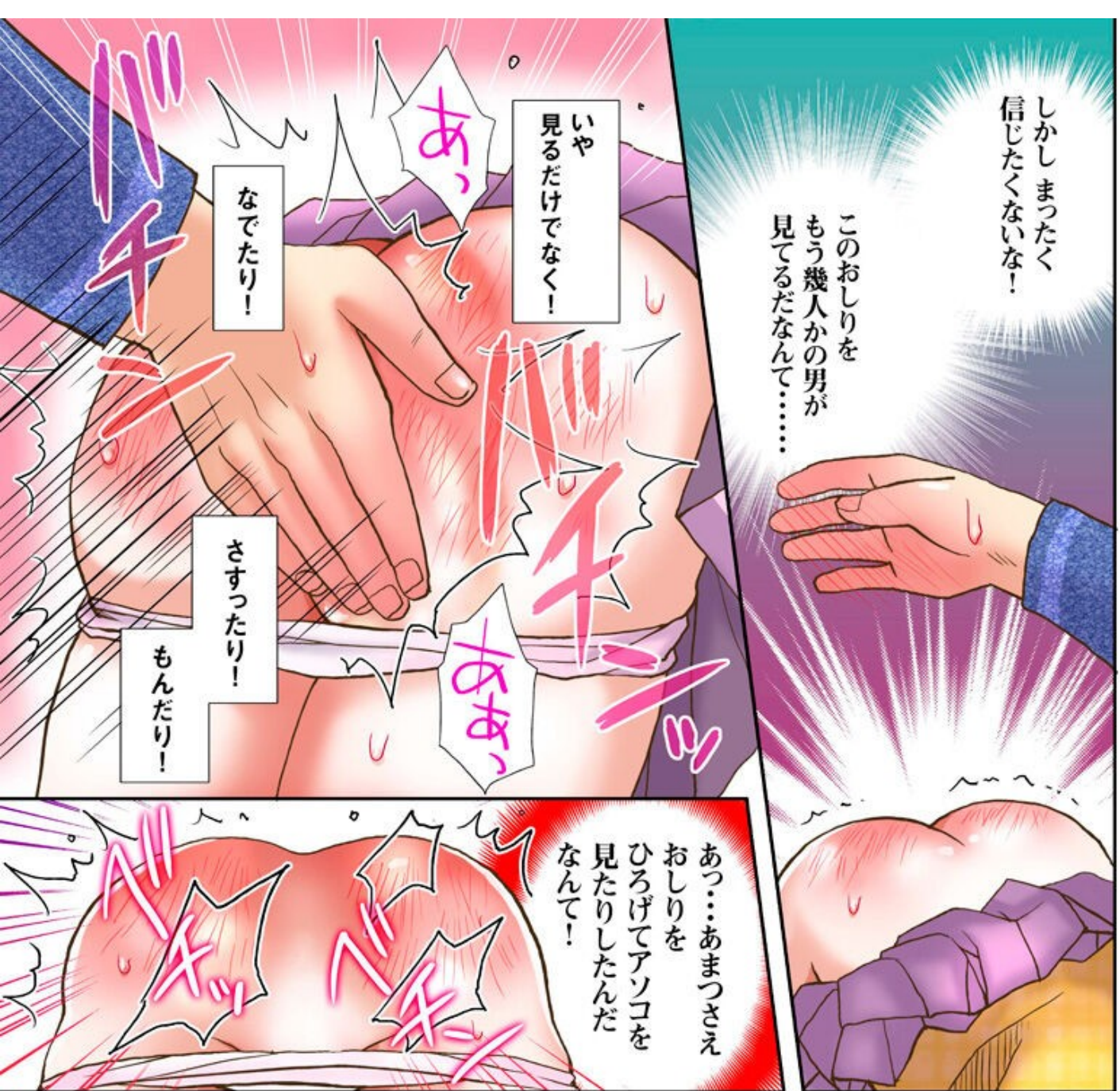




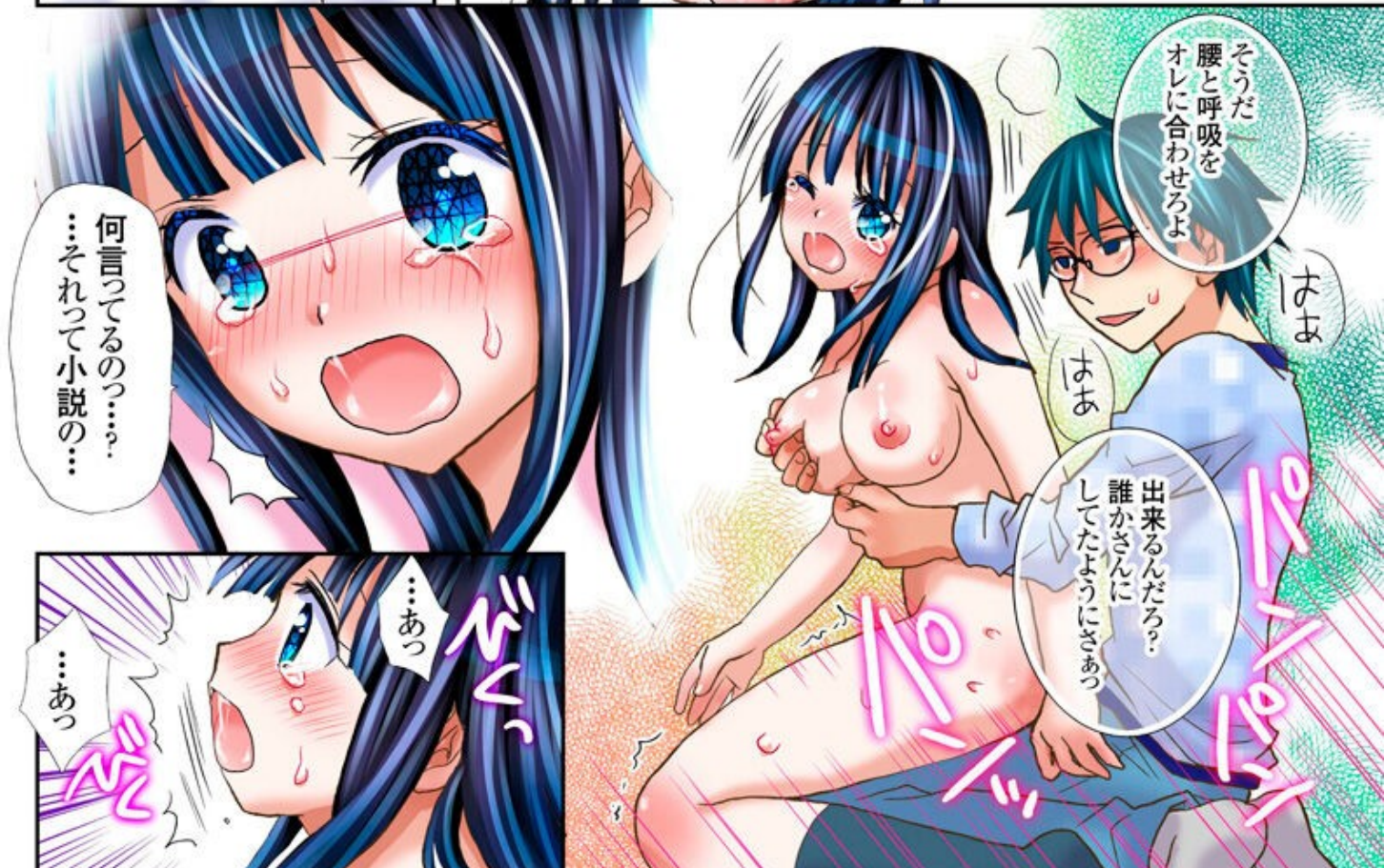












チャプター6「ごめんね」おわり。

こんな感じで書いてみました。
結構アレンジしちゃったけど
どうかな？
玲菜の感想待ってるね☆

P.S.

次の体験談も楽しみにしてる
けど無茶しちゃだめだよ
(´▽｀*)ε(´▽｀*)

あーっ

なにこれ……？

え何言つて……
……だって
あのメール……

お兄ちゃん……
……あたし
わかった
最後まで
読んでないでしょ
あのメール

そりゃあたし……
……初めて
だったから……

お兄ちゃんが怒ったのは
エッチな小説を
書いたことなんだと
思ったから……

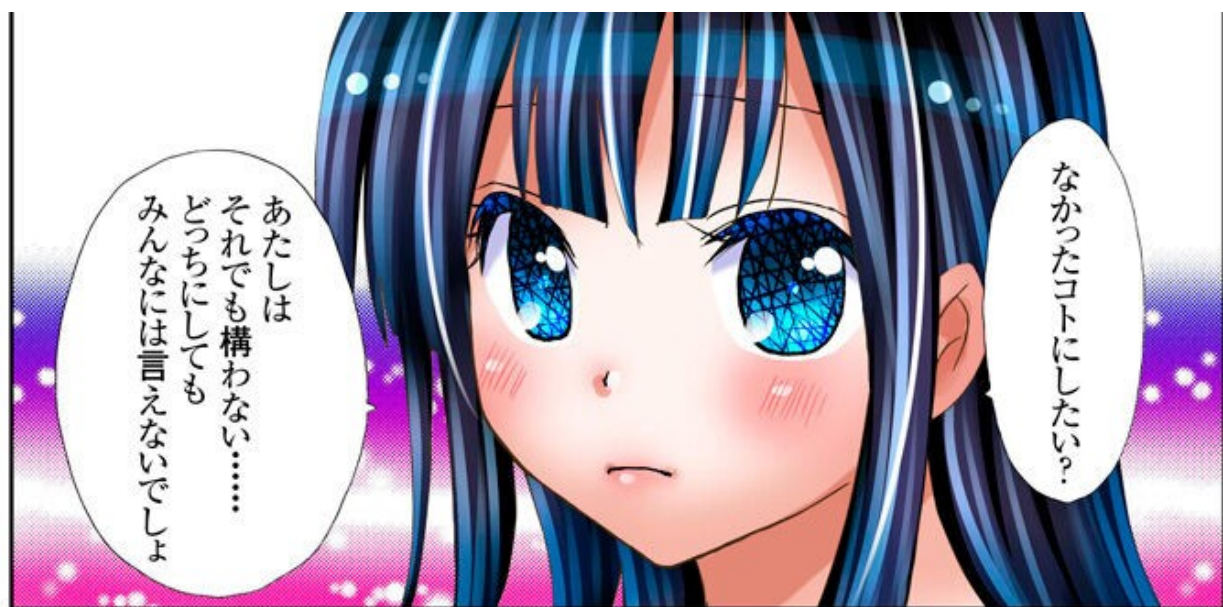
ななんだよ！
小説なら小説って
早く言ってくれば

だって……
すぐくエッチ
だったでしょ……

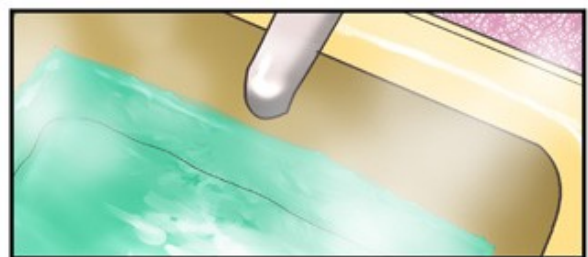
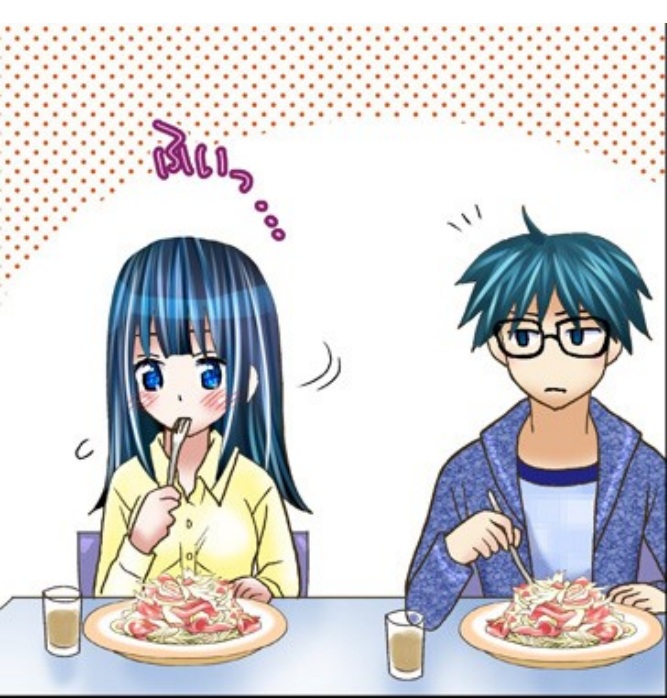
友達玲菜に
送るつもりだった
あたしの携帯小説
基本
フィクション
だから

あ……
でも、ひとりで抱えて
るのがつらくて
お兄ちゃんに聞
いや僕は
てつきり……

いやまあ
確かにそれは
そうだけど……
……でも……

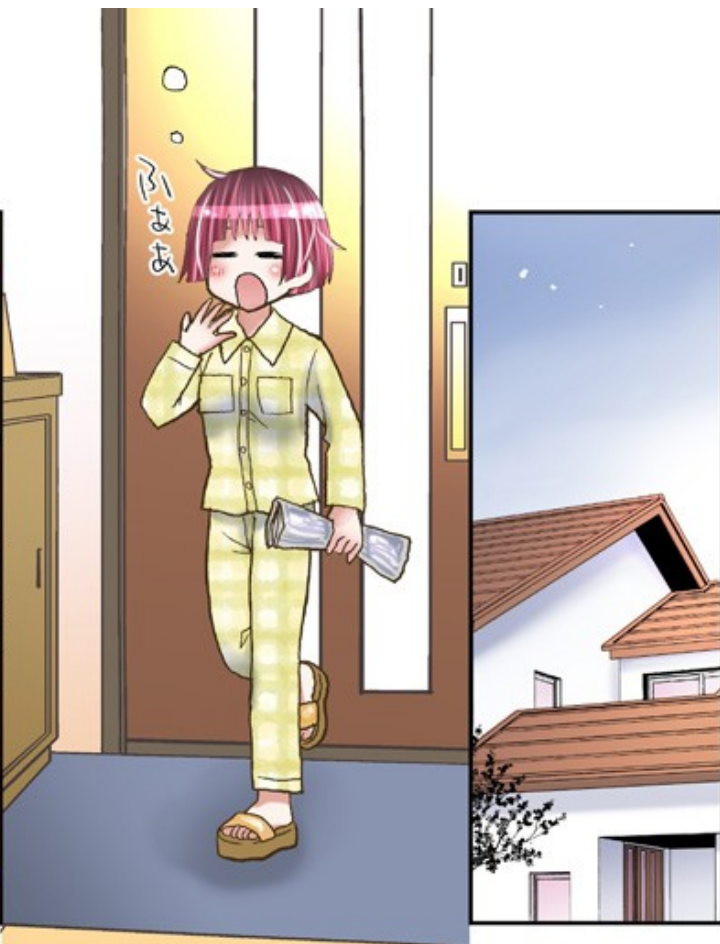






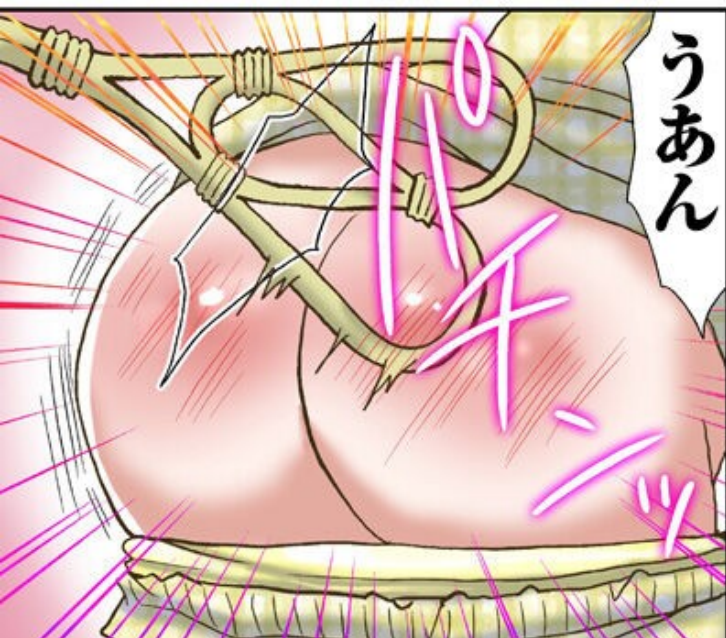














ごめんね麗
お兄さまのスマホを
盗んで玄関に
置いたのは私なの

嘘じゃないって!



だってだから
ホントだって!

アタシ
盗ったり
してないよお!

嘘をつくんじゃない!



朝イチで
新聞取るのを
日課にしてる麗なら
絶対それを手にすると
思ったのよ……



はあ

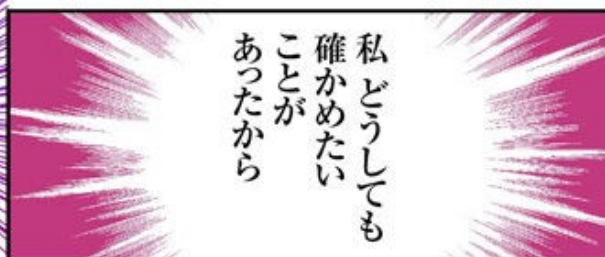
はあ

こんなところで
何してるの……
でも指が
止まらない……っ

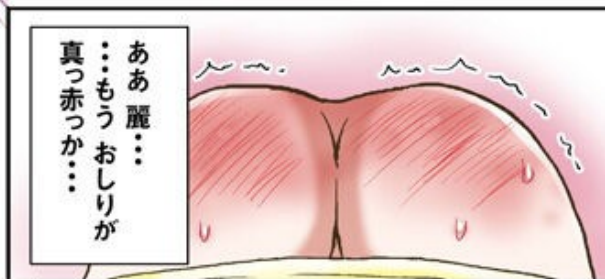
あ……うそ……
…私……
だめ……っ

もぞもぞ

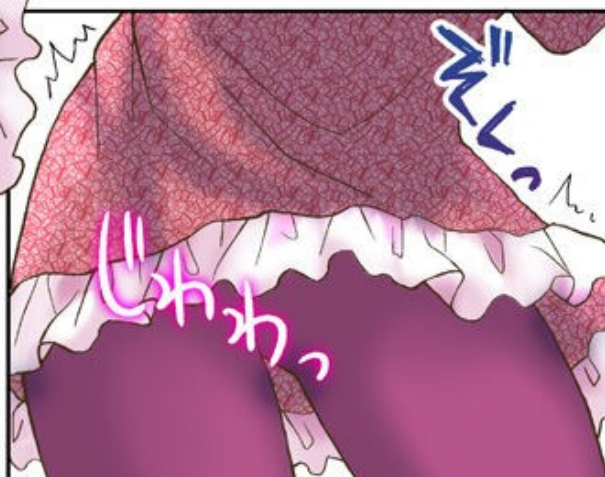
くちゅ
くちゅ



私どうしても
確かめたい
ことが
あったから

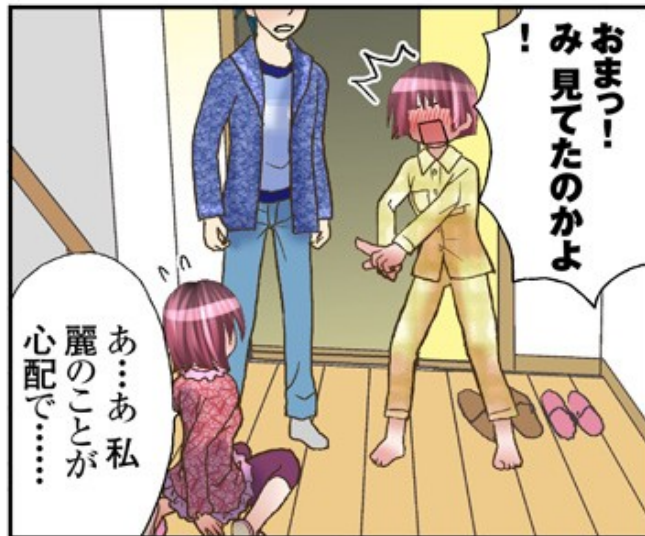


ああ麗……
…もうおしりが
真っ赤っか……

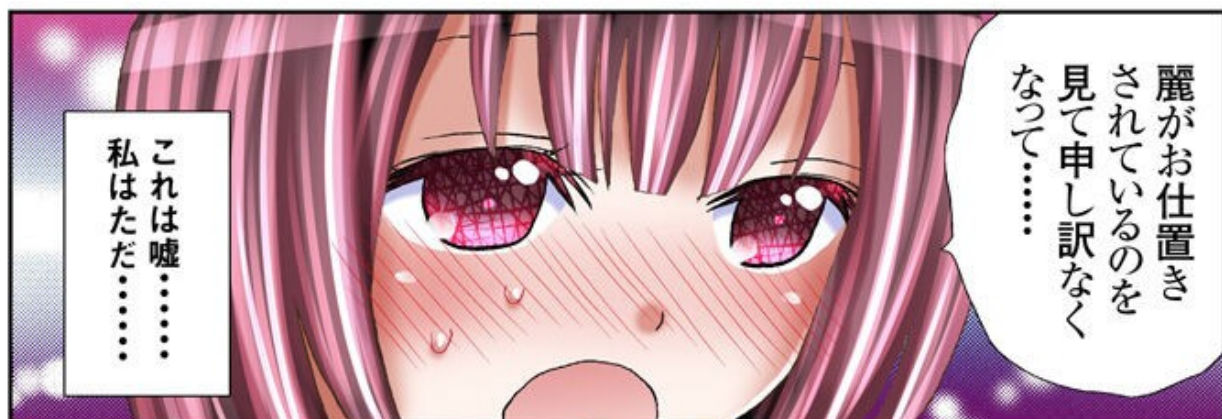


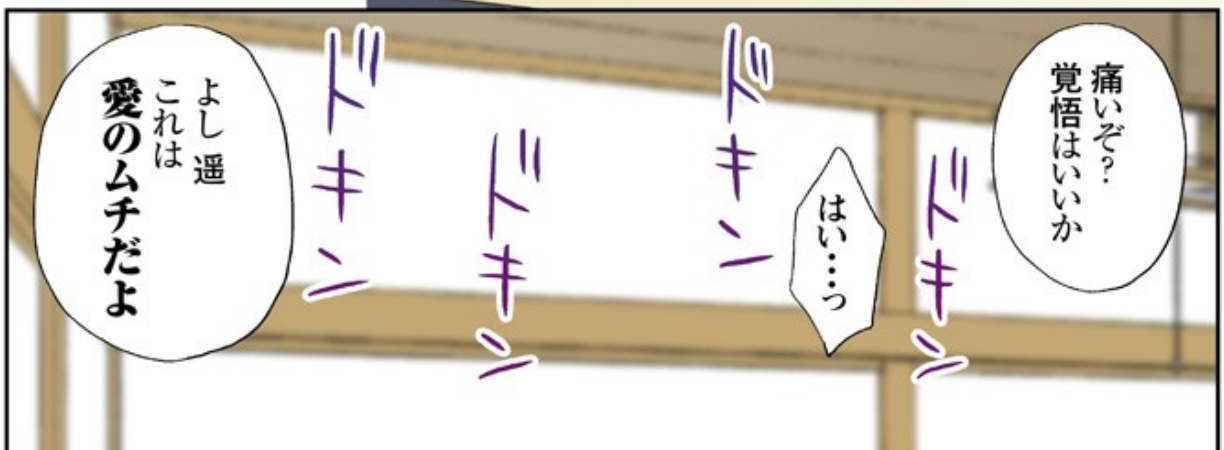
じわわっ

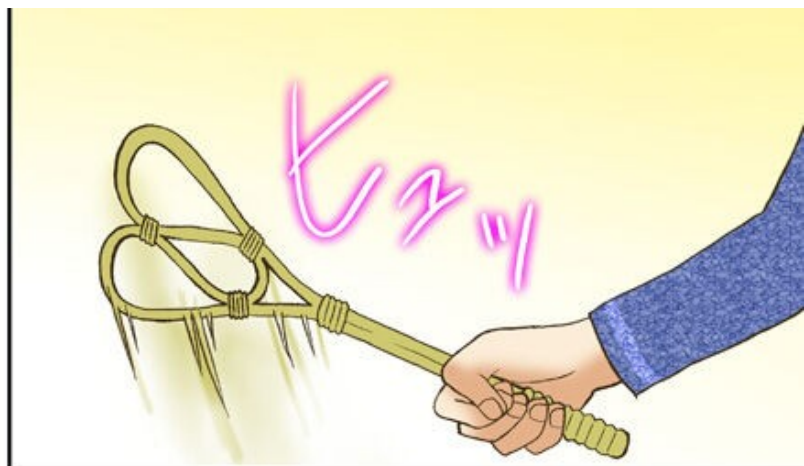


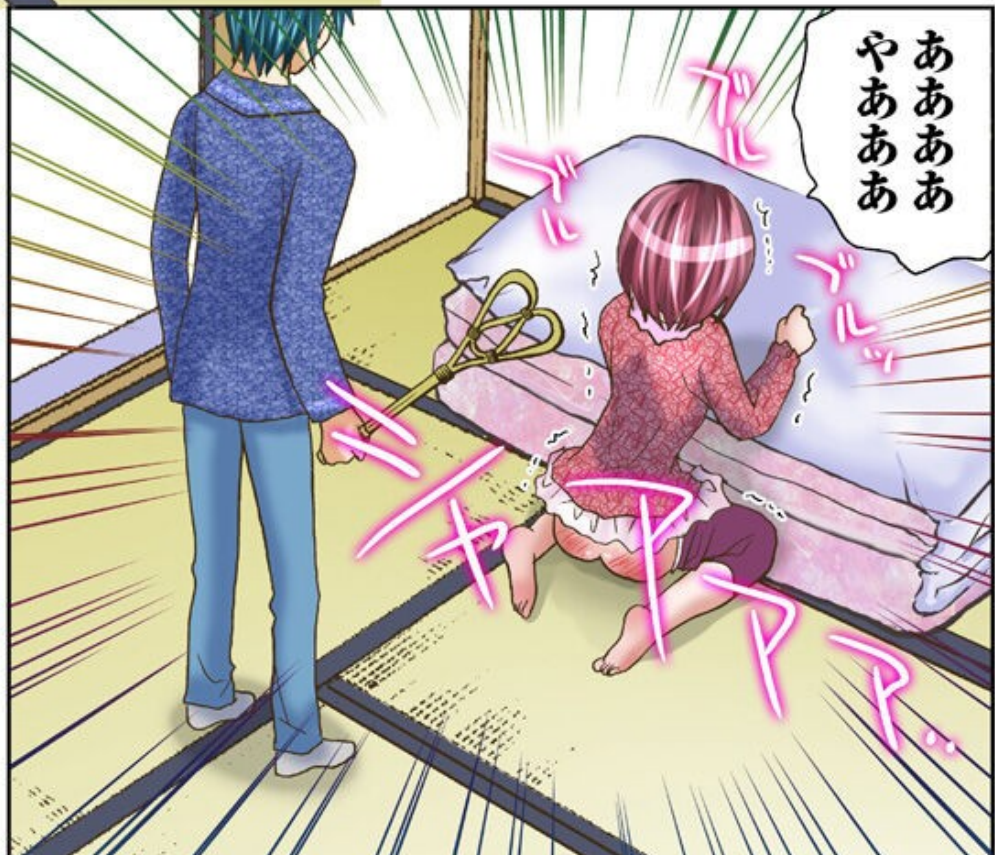










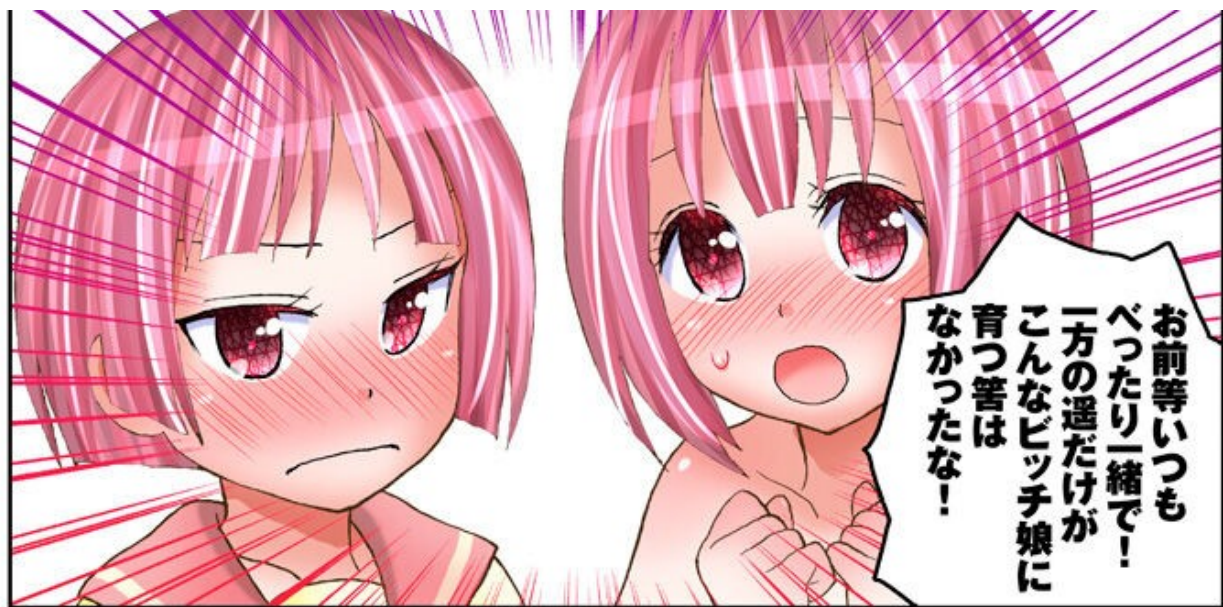














処女マ○コの
くせに
トロトロだな



麗自分で
拵けてみる

そうだ
よし



……う



ぐんぐん

ぐんぐん

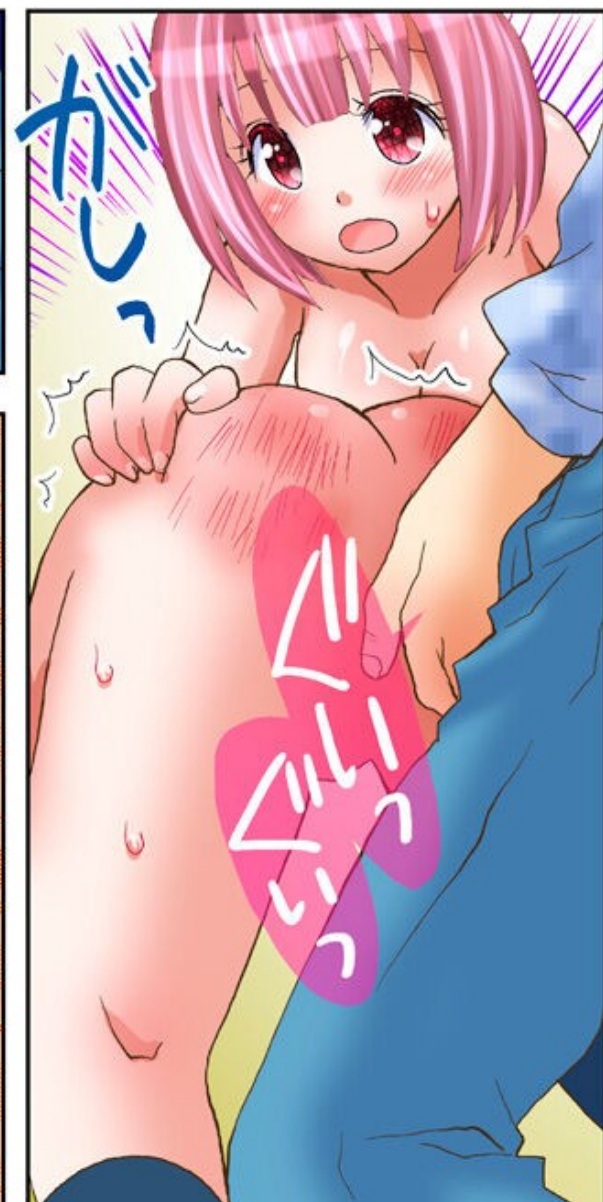
ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん



直接
ほぐしながら
挿入してやる





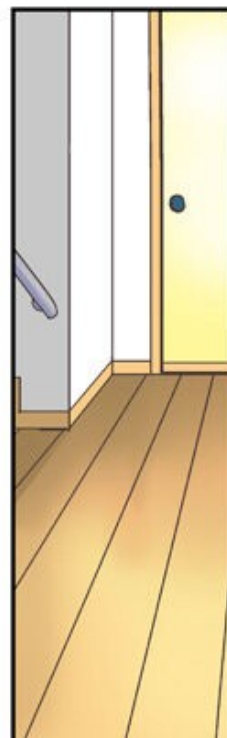
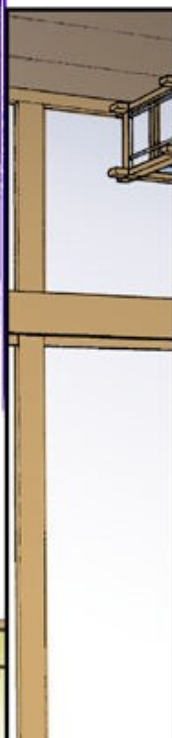
どうしてかな
麗のこと
すごく
可愛く見える……!





これも
お兄さまの
ひとつの姿なのね...







妹達みんなを
こんな形で
汚してしまった

僕はこの家の
長男失格だ……



もはや
この家を
出て行く
しかない



僕は母さんの
代わりになんて
なれなかったよ
……



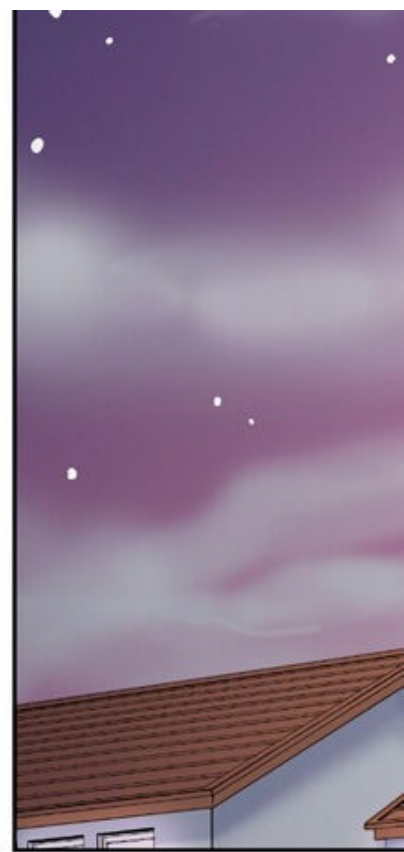
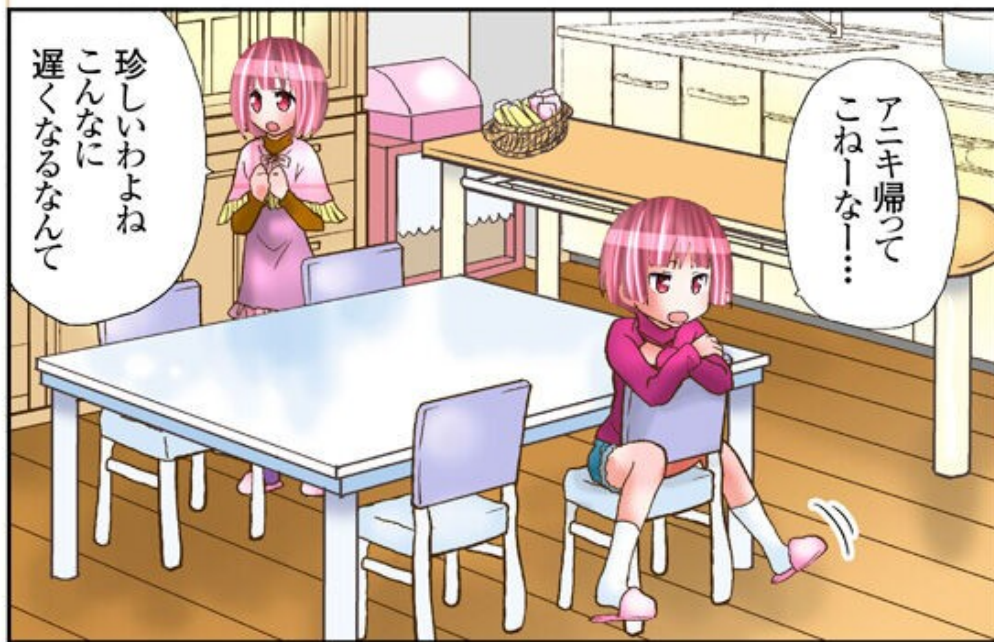
そして
母さん……

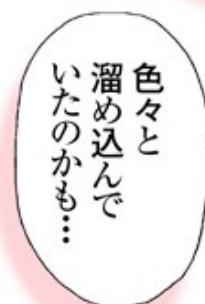
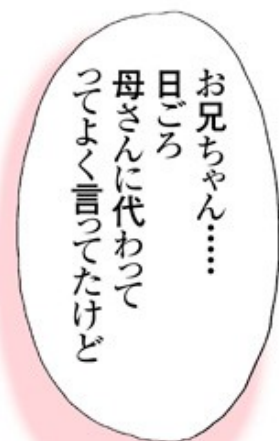
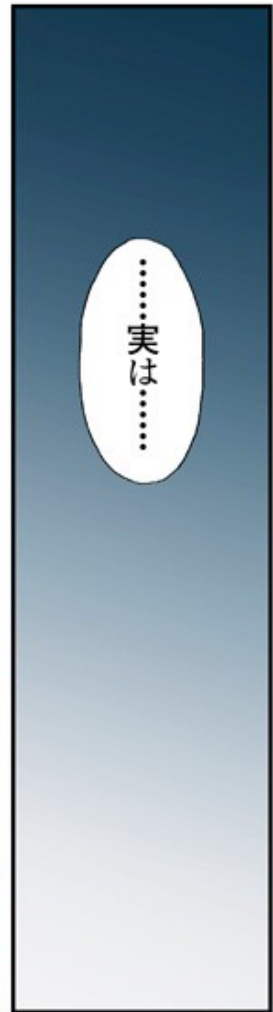


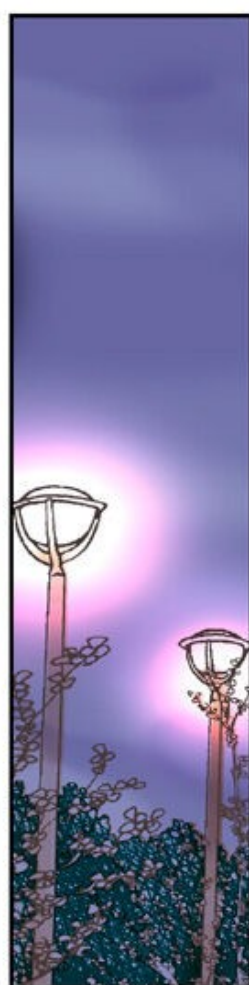
僕に全てを
任せてくれた
父さん
すまない

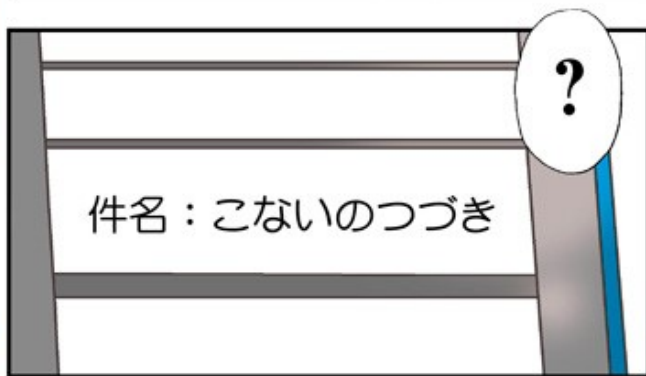
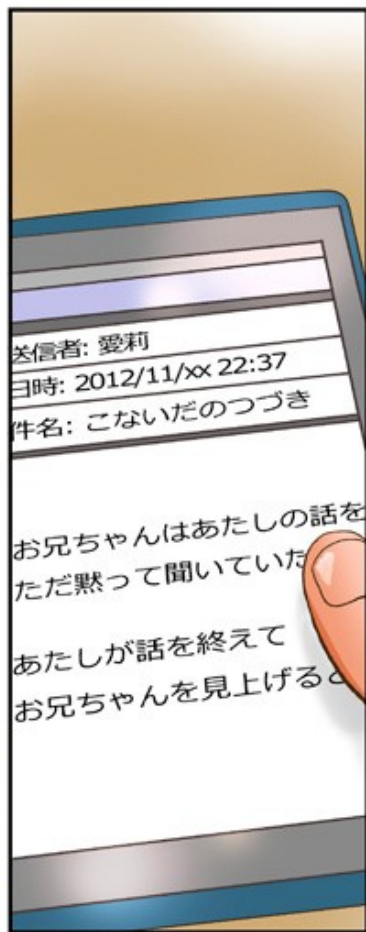


愛莉
麗遥
すまない











さあ
僕の膝の上に
横たわって
お尻を出さない!



おお兄ちゃん
何するの……?

決まってるだろう!



僕は育て方を
間違っ
しまったのかな

もう一度
昔みたいに
騎直さない
といけない
ようだね



小さい頃よくお仕置きで
お尻を叩かれた事があるのだけど

もう、あたしは、大人

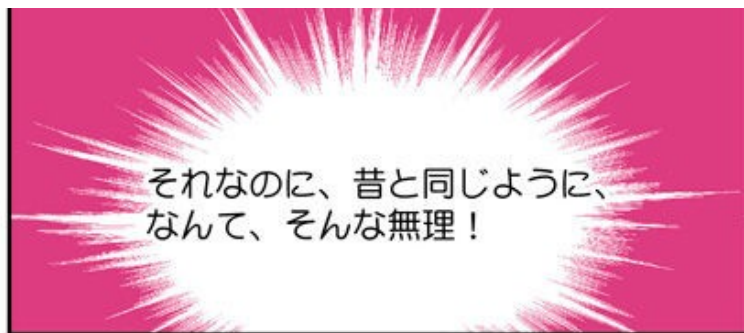
おにいちゃんには、まだコドモに
見えるかも知れないけど

少なくとも、カラダはこんなに大きくなった。



え……
おおいおい
なんだ
この展開は……

どどーん





あたしのお尻が
お兄ちゃん目に映ったのを感じて
かあっと全身が熱くなった。



やっぱり、恥ずかしい！

お願い、もう許して、あたしを放して！



そして、二度、三度と、
振り下ろされるお兄ちゃんの手。



考える間もなく、
お兄ちゃんの平手が
あたしのお尻を打った。



お尻だけに留まらず
あたしの全身を駆け巡っていった。



打たれた痛みは、すぐに熱へと変わり

か
あ
あ
あ

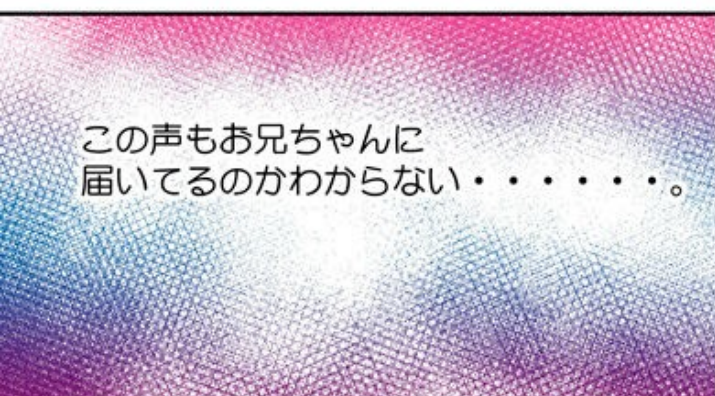


その熱も
どんどん加えられるモノだから



ごめんなさい

ゆるして



この声もお兄ちゃんに
届いてるのかわからない……………。



四度、五度……………
もう何度かわからない。



恥ずかしさと痛みと熱で
アタマの中も沸騰したみたいになって

もう何も考えられなくなってきた頃・・・・



ふいに、叩いた後に
やさしくお尻をなでる手の動きに気付いた。



お兄ちゃんは戸惑って
いるようだった。

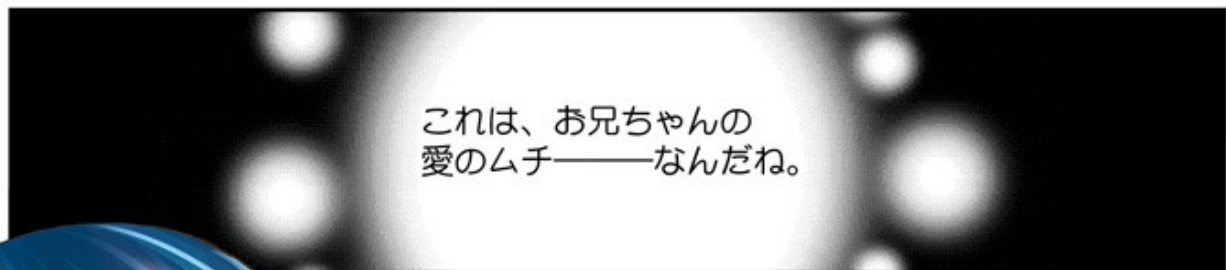




そうだね・・・お兄ちゃんだって

叩きたくて叩いてるんじゃないんだものね。

全てはあたしのために
思ってしてくれていること。



これは、お兄ちゃんの
愛のムチ——なんだね。



カラダがお兄ちゃんの全てを
受け入れたくなった。

もっと強く叩くなら、それでもいい。

他にしたい事があるなら
.....それでもいい。



そんなふうに思った
瞬間、
全身の力が抜けた。



そして、その晩。



お兄ちゃんのする何もかもを
今のあたしなら
受け入れられると、思った。



あたしとお兄ちゃんは
兄妹の一線を越えることになった。

今までは、友達の経験談を
元にしてHな小説書いていたけど

初めて、自分の経験を元にして
書いてみちゃった！

フフ。

あたし、こんなコだけど、
お兄ちゃん
お仕置きしなくていいの？



チャプター7：
お兄ちゃんの愛のムチ
おわり

P.S.
言っとくけど、誤爆じゃないよ。



愛莉……



いもうとに愛のムチ

著者 ゆーきい

発行 にゃん★こみ

本書の無断転載・複製等は著作権法上禁止されております。